

弘前市における余暇活動の空間的展開

荒 川 務

I はじめに

近年、人々の余暇時間は増加する傾向にあり、余暇に対する関心も高まりをみせている。また余暇活動は人間の行動空間を分析するための有効な指標と考えられる（落合，1991）。本論文では、弘前市の大学生と中学生の父母を対象として、その余暇活動の空間的拡がりについて分析を行ない、考察していく。

本論文では余暇活動を1．弘前市内における余暇活動，2．日帰りの余暇活動，3．宿泊を伴う余暇活動と分類し、季節による差異も併せて考察する。このため、1992年12月にアンケート調査を実施した。アンケートは、大学生

については弘前大学教育学部の75人、保護者については3地区から弘前市立第一中学校（中心地区）、第五中学校（新興住宅地区）、石川中学校（郊外地区）、それに弘前大学附属中学校を併せた4校の保護者304人から回答を得た。研究対象地域として取り上げた弘前市は、人口約17.5万人（1990年）の青森県津軽地方南部における中心都市である。



図1．おもな余暇活動対象地

II 余暇活動状況

1．弘前市内における余暇活動

表1-aは大学生が弘前市内での余暇活動に利用する交通手段をあらわしたものである。四季を通じて自動車の割合が高くなっている。大学生の余暇活動の総合活動指数^注をあらわしたのが表2-aである。四季を通じて指数が高いのは「外食する」、「酒場に行く」、「ショッピング」、「カラオケに行く」である。

3地区の中学生の保護者について余暇活動の交通状況をあらわしたのが表1-b～dである。3地区ともに自動車を利用する割合が高いが、中心地区では徒歩、自転車の割合も高いことがわ

表1. 弘前市内における余暇活動の交通状況

a. (大学生) 延べ人数に対する割合, %

	徒歩		自転車		バイク		自動車		鉄道		バス	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
春	27.9	19.4	27.0	40.0	4.1	0.9	36.5	31.3	3.2	11.7	1.4	0.9
夏	27.1	24.1	27.7	39.8	3.6	0	40.0	24.7	2.4	9.6	1.2	1.8
秋	28.4	22.5	26.5	27.5	5.2	0	38.1	33.8	1.9	12.7	0	3.5
冬	45.7	39.5	11.8	14.9	3.1	0	37.8	27.2	0.8	11.4	0.8	7.0

b. (保護者：中心地区) 延べ人数に対する割合, %

	徒歩		自転車		バイク		自動車		鉄道		バス	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
春	5.3	6.4	2.8	3.6	0	0.7	88.3	85.4	2.1	3.2	1.8	0.7
夏	6.8	4.3	2.4	4.3	0	0.7	84.9	80.4	2.4	7.6	3.6	2.5
秋	3.1	3.1	4.1	1.3	0	0.9	88.8	86.7	2.0	3.6	2.0	4.4
冬	6.9	3.9	0	0	0	0	88.4	83.8	3.5	5.9	1.2	6.4

c. (保護者：新興住宅地区) 延べ人数に対する割合, %

	徒歩		自転車		バイク		自動車		鉄道		バス	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
春	5.9	6.9	10.1	6.3	0	0.6	82.4	78.0	0	0.6	1.7	8.2
夏	11.5	11.3	11.5	12.1	0	0.7	74.0	70.2	1.9	2.1	1.0	3.5
秋	2.7	7.4	9.3	10.6	0	1.1	86.7	78.7	0	0	1.3	2.1
冬	5.1	8.1	8.5	4.6	0	0	83.1	81.6	0	1.1	3.4	4.6

d. (保護者：郊外地区) 延べ人数に対する割合, %

	徒歩		自転車		バイク		自動車		鉄道		バス	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
春	24.5	25.9	13.7	7.9	1.0	0.9	60.8	62.5	0	0.5	0	2.3
夏	31.7	31.7	10.9	13.7	0	0.5	57.4	53.0	0	0	0	1.1
秋	14.6	32.5	12.2	6.0	0	1.3	73.2	58.3	0	0	0	2.0
冬	25.7	30.3	4.3	3.5	0	0.7	70.0	60.6	0	0.7	0	4.2

資料：アンケート調査

表2. 弘前市内における余暇活動の総合活動指数

a. (大学生)

		春	夏	秋	冬
外食	男	381.6	400.0	402.6	321.1
	女	462.2	381.1	364.9	300.0
酒場	男	450.0	386.8	380.5	313.2
	女	351.3	302.7	229.7	235.1
パチンコ	男	115.8	81.6	81.6	65.8
	女	5.4	5.4	0	13.5
映画	男	57.9	42.1	31.6	15.8
	女	37.8	18.9	10.8	5.4
ショッピング	男	326.3	278.9	265.8	194.7
	女	408.1	381.1	286.5	237.8
カラオケ	男	284.2	215.8	176.3	205.3
	女	243.1	218.9	143.2	105.4
スポーツ観戦	男	242.1	192.1	218.4	239.5
	女	189.2	108.1	132.4	97.3
コンサート	男	18.4	28.9	21.1	21.1
	女	21.6	18.9	21.6	10.8
その他	男	197.4	76.3	28.9	34.2
	女	164.8	64.9	13.5	16.2

b. (保護者：中心地区)

		春	夏	秋	冬
外食	男	285.2	270.4	185.2	177.8
	女	298.0	310.0	219.6	192.2
酒場	男	237.0	196.3	140.7	151.9
	女	72.5	37.3	29.4	37.3
パチンコ	男	70.4	77.8	25.9	81.5
	女	0	0	0	0
映画	男	22.2	18.5	3.7	0
	女	49.0	23.5	23.5	23.5
ショッピング	男	218.5	163.0	170.4	144.4
	女	398.0	307.8	278.4	229.4
カラオケ	男	11.1	0	7.4	3.7
	女	39.2	31.4	23.5	25.5
スポーツ観戦	男	103.7	118.5	88.8	81.5
	女	186.3	129.4	131.4	94.1
コンサート	男	14.8	7.4	18.5	18.5
	女	56.9	15.7	25.5	11.8
その他	男	88.8	140.7	25.9	37.0
	女	109.8	196.1	29.4	45.1

c. (保護者：新興住宅地区)

		春	夏	秋	冬
外食	男	246.7	206.7	180.0	120.0
	女	236.4	215.9	143.2	136.4
酒場	男	156.7	173.3	116.7	123.3
	女	59.1	43.2	38.6	31.8
パチンコ	男	183.3	150.0	136.7	100.0
	女	15.9	0	0	13.6
映画	男	20.0	16.7	3.3	6.7
	女	20.5	11.4	4.5	9.1
ショッピング	男	233.3	216.7	140.0	100.0
	女	338.6	322.7	238.6	204.5
カラオケ	男	26.7	16.7	23.3	0
	女	40.9	31.8	18.2	11.4
スポーツ観戦	男	120.0	76.7	86.7	40.0
	女	77.3	52.3	59.1	70.5
コンサート	男	23.3	6.7	0	3.3
	女	38.6	29.5	25.0	11.4
その他	男	103.3	110.0	20.0	33.3
	女	86.4	109.1	20.5	22.7

d. (保護者：郊外地区)

		春	夏	秋	冬
外食	男	270.1	270.1	231.3	204.5
	女	274.1	257.6	202.4	204.7
酒場	男	182.7	132.8	129.9	123.9
	女	83.5	40.0	37.6	42.4
パチンコ	男	113.4	92.5	71.6	58.2
	女	14.1	9.4	3.5	0
映画	男	19.4	22.4	14.9	10.4
	女	16.5	10.6	5.9	8.2
ショッピング	男	267.2	232.8	167.2	147.8
	女	300.0	338.8	310.6	276.5
カラオケ	男	38.8	37.3	29.9	22.4
	女	23.5	36.5	23.5	14.1
スポーツ観戦	男	119.4	125.4	97.0	110.0
	女	90.6	100.0	111.8	110.6
コンサート	男	14.9	25.4	16.4	9.0
	女	35.3	17.6	48.2	18.8
その他	男	128.9	123.9	41.8	29.9
	女	70.6	105.9	28.2	31.8

注) その他は春：弘前公園桜祭り 夏：ねぶた祭り 秋：弘前公園秋祭り 冬：弘前公園雪灯籠祭り

資料：アンケート調査

かる。3地区の保護者の余暇活動の総合活動指数をあらわしたのが表2-b~dである。「外食する」、「ショッピング」の指数が高い点では共通する。

2. 日帰りの余暇活動

大学生の対象地別の総合活動指数を示したのが図2-a~dである。多くのスキー場が対象地として選択されている。夏には海岸が多く選択されている。秋は紅葉のシーズンであり、十和田湖は四季の中で一番高い数字である。冬になると対象地の選択の幅が狭まり、スキー場がその中心になる。

保護者については、304人をまとめて考察することにしたが、その総合活動指数を示したのが図3-a~dである。春のおもな対象地は青森市、岩木山、大鰐スキー場である。夏は海辺の対象地が多い。秋は紅葉のシーズンということもあり十和田湖、奥入瀬溪流が四季の中で最も高い数字になっている。冬の対象地の選択の幅は狭まり、スキー場と温泉地が中心になっている。

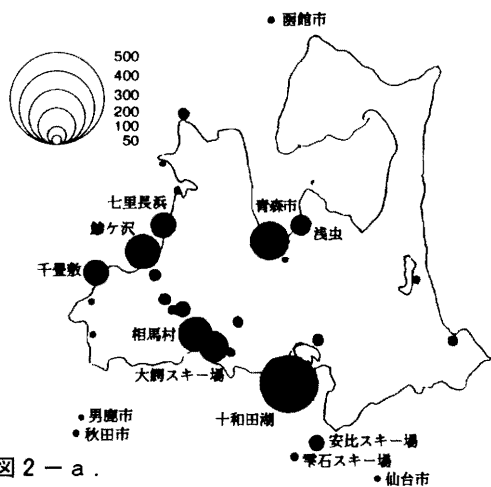


図2-a.

日帰りの余暇活動の対象地別
総合活動指数(大学生)春

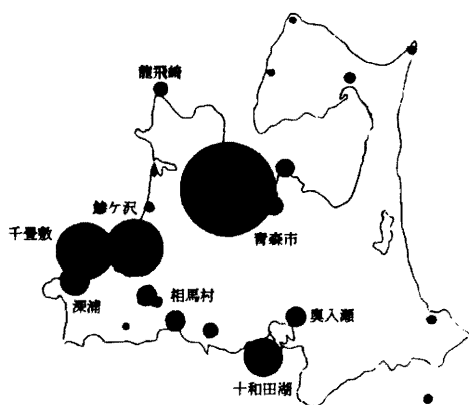


図2-b. 夏

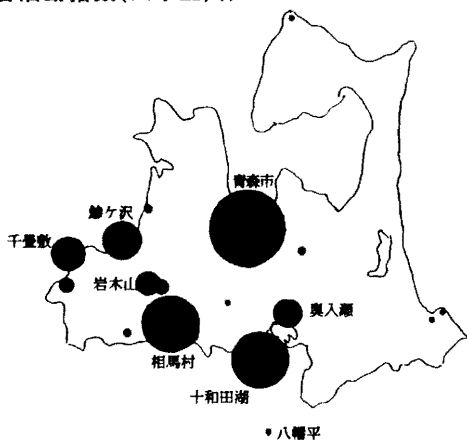


図2-c. 秋

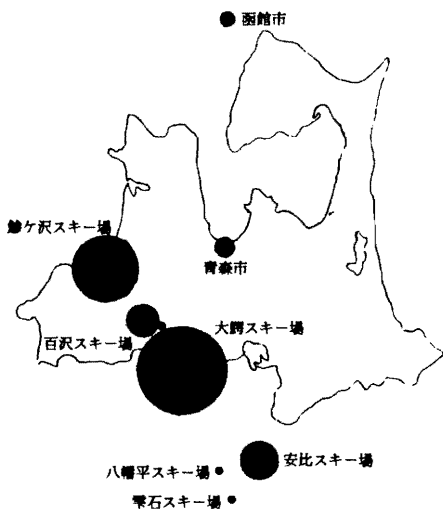


図2-d. 冬

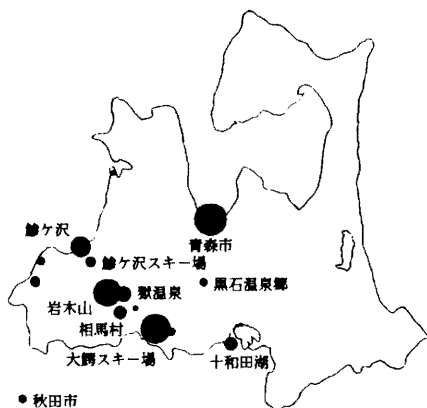


図 3 - a .
日帰りの余暇活動の対象地別
総合活動指数(保護者)春

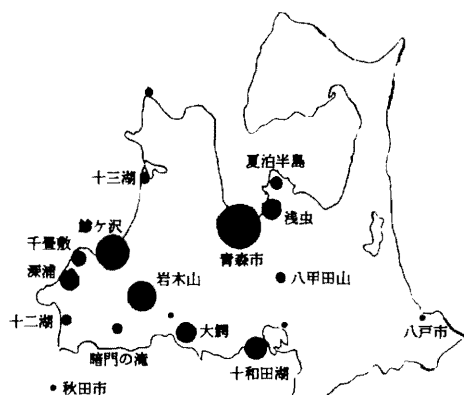


図 3 - b . 夏

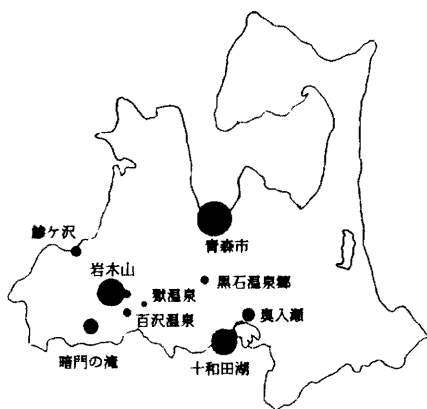


図 3-c

図 3 - c . 秋

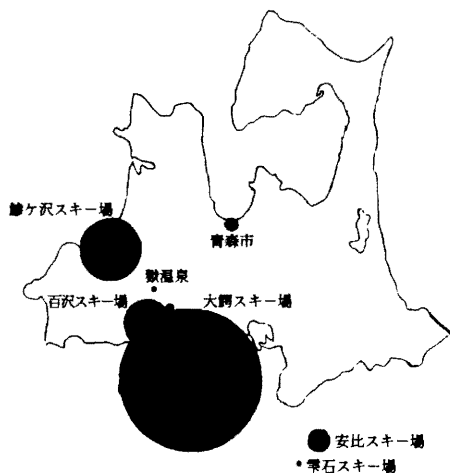


図 3 - d . 冬

日帰りの余暇活動の交通手段は、大学生、保護者ともに四季を通じて自動車の利用率が一番高くなっているが、大学生では徒歩・自転車の利用も多い。

3. 宿泊を伴う余暇活動

大学生の宿泊を伴う余暇活動の場合、県内では深浦、十和田湖、相馬村（スポーツ施設が整備されている）、下北半島がおもな対象地となっている。県外では、東北地方を対象地として選択する傾向が強い（図 4）。四季の中では長期の休暇が取れる夏の活動が特に多い。

保護者の県内における対象地は、下北半島、十和田湖、青森市浅虫（温泉と水族館がある）、大鰐、深浦などである。多くの温泉地が対象地として選択されていることが特徴となっている。県外では大学生と同様に東北地方を選択する傾向が強くなっている（図 4）。季節的には家族でまとまった休暇が取れる夏の余暇活動が多くなっている。

宿泊を伴う余暇活動の交通手段だが、大学生、保護者ともに自動車の利用率が高く、鉄道、バスがこれに続いている。

Ⅲ 余暇活動の空間的展開

1. 弘前市内における余暇活動

余暇活動の総合活動指数は、全体的には大学生の方が高い数字を示している。このことは大学生の市内における活動密度が保護者よりも高いということにはほかならない。交通手段は保護者の方が自動車の利用率が高くなっている。

2. 日帰りの余暇活動

日帰りの余暇活動では、大学生の場合、季節によって特定の対象地が多く選択される傾向があり、また空間の拡がりには方向性がある。保護者の場合は季節による対象地の選択傾向は大学生ほど顕著ではなく多種多様であり、大学生よりも活動空間に拡がりがある。

交通手段をみてみると、やはり自動車が高とんどである。自動車のもつ機動性、他の交通機関にはみられない利便性の高さがその理由であると考えられる。

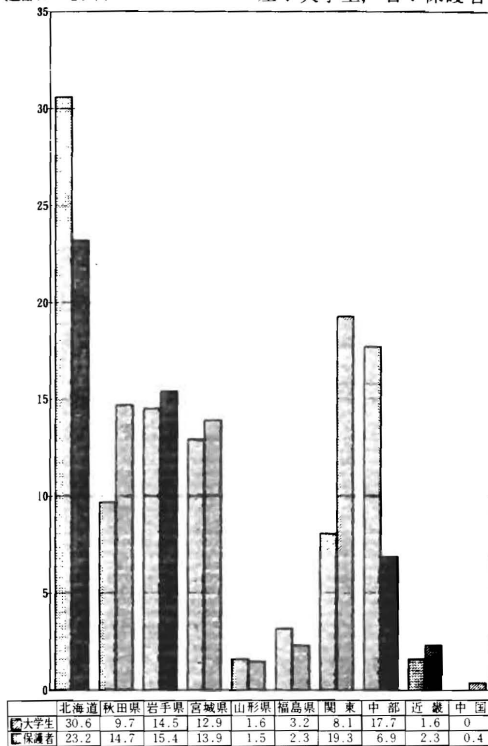
3. 宿泊を伴う余暇活動

宿泊を伴う余暇活動は、県内の場合大学生、保護者ともに県内屈指の観光地を選択している点で共通している。県外における余暇活動も活動者のほぼ半数が東北地方を、つづいて北海道を2割から3割の人が選択している点で共通する。交通手段については、対象地が遠距離にある場合、運転者の負担が大きくなるため、自動車以外を利用する割合が高くなる。

Ⅳ ま と め

1. 市内における余暇活動の活動密度は大学生の方が高い。保護者の活動内容は居住地による違いはあまりみられない。
2. 市内における余暇活動では自動車の利用率が高い。この傾向は保護者において顕著であるが、市の中心地区の場合は徒歩・自転車の利用率が他の2地区よりも高い。大学生は徒歩・自転車の利用率も高い。

(単位：パーセント) 左：大学生、右：保護者



資料：アンケート調査

図4. 宿泊を伴う余暇活動の対象地の選択傾向
(延べ人数に対する割合)

3. 日帰りの余暇活動の空間的な拡がり、大学生の場合、季節によって特定の対象地が選択される傾向があり、方向性をもつ。保護者の余暇活動空間は、多くの対象地へ分散していて大学生よりも拡がりをもつといえる。
4. 日帰りの余暇活動の交通手段は大学生、保護者ともに自動車が多い。余暇活動空間の拡がりには自動車の機動性、利便性の高さが大きく貢献しているといえる。
5. 宿泊を伴う余暇活動の空間的な拡がり、県内の場合、県内屈指の観光地が選択される点では共通するが、保護者は多くの温泉地を選択する傾向にある。県外では大学生、保護者ともに東北地方が約半数を占める。
6. 宿泊を伴う余暇活動の交通手段は自動車が多いものの、移動に対する負担が他の余暇活動よりも大きくなるため、鉄道、バスも利用されている。

以上がアンケート調査により判明したことであるが特に弘前市における余暇活動の年齢による差異をとらえることができたと考える。

最後に本稿を作成するに当たり、ご指導を賜った後藤雄二先生、水野裕先生に厚く御礼申し上げます。また、アンケート調査にご協力くださった各校の先生方とご父兄の皆さんに深く感謝いたします。

(注)

$$\text{総合活動指数} = (p_a + 2p_b + 3p_c + 4p_d + 5p_e + 6p_f) \times 100 \div n$$

aは1回行ったことがある、bは2回、cは3回、dは4回、eは5回、fは6回以上とランクを設定した。

p_a : 対象地pについて活動の回数のランクをaとした回答者数。 $p_b \sim p_f$ も同様。

n : 回答者総数

この計算式は、落合(1991)が使用したものを修正したものである。

総合活動指数は対象地へ行った総量をあらわす指標であり、多くの人が行った対象地ではこの値が高くなる。

【参 考 文 献】

落合康浩(1991): 神奈川県中西部における余暇活動の空間的展開

経済地理学年報37-3, 45-65

落合康浩(1987): 静岡県中部地区における週末型余暇活動の地域的展開

地理誌叢29-1, 40-45

落合康浩(1990): 平日型余暇活動の空間的展開

地理誌叢31-2, 31-42